

WEEKLY SIGNAL

2019年7月12日(金) 1482号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	7/15(月)	7/16(火)	7/17(水)	7/18(木)	7/19(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券		+ 800	+ 1,000	ト ン	ト ン
財政他		+ 5,200	+ 3,000	△ 6,000	+ 2,000
資金需給		+ 6,000	+ 4,000	△ 6,000	+ 2,000
主要要因		国債償還(2年) 国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(20年)	
オペ期日		共通担保 △ 700 CP買入 △ 700			被災地支援 △ 1,100
オペスタート	祝日				
(日本)		国債買入 + 10,300 共通担保 + 700			
(日本)		日銀金融政策決定会合 議事録等公表(2009年1-6月開催分)		貿易収支(6月)	消費者物価指数(全国、6月)
(海外)	米 NY連銀総裁、講演 欧 EU外相会合 中 GDP(2Q)	米 シカゴ連銀総裁、講演 米 輸入物価指数(6月) 米 小売売上高(6月) 米 鉱工業生産(6月) 英 カーニー中銀総裁、講演(ハリ)	G7財務相・中央銀行総裁会議 (フランス・シャンティイ、18日まで) 米 地区連銀経済報告(バージェック) 欧 ユーロ圏CPI(6月) 英 CPI(6月)	米 アトランタ連銀総裁、講演 米 NY連銀総裁、講演 米 新規失業保険申請件数 (7月13日終了週)	米 セントルイス連銀総裁、講演 米 ボストン連銀総裁、講演 米 シカゴ大学消費者マインド指数(7月)

【インターバンク市場】

<インターバンク>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.060 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

日銀当座預金残高は、週初406兆1,000億円から始まった。その後10日の国債発行や12日の源泉税揚げを主因として減少し、400兆6,000億円を超過した。無担保コールON物は、ビッドの弱い軟調な地合いが続いた。積み期最終日である週末12日も、地合いに大きな変化はなかった。同加重平均金利は、週を通して△0.077%~△0.075%の間で推移した。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.070%~△0.060%の水準で出合が見られた。日銀は8日、7月の地域経済報告(さくらレポート)を公表し、全9地域の景気判断を前回から据え置き、北海道・東北・四国を「回復」、その他6地域を「拡大」とした。近畿については、「一部に弱めの動きが見られる」との文言が追加された。来週の主な予定は、国内では貿易統計(6月)の公表(18日)や、全国消費者物価指数(6月)の公表(19日)などがあり、海外では中国GDP(4月~6月)の公表(15日)や、G7財務相・中央銀行総裁会議(フランス・シャンティイ、13日)などがある。

【オープン市場】

<C P>

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約1兆1,000億円で、週間償還額(約2,800億円)に対し大幅に増加した。連日、商社・鉄鋼・石油・建設業態等からの大型案件が実施され、活況であった。先週末の市場残高(20兆4,059億円)に対し、10日時点では20兆8,000億円弱となった模様。発行レートは、投資家の運用ニーズに変わりなく0%からマイナスでの出合いであった。9日に、CP等買入れオベが予定通り2,000億円オファーされた。結果は、按分レート△0.003%、平均落札レート△0.002%と、前回比(按分△0.003%、平均0.002%)で、按分レートは横ばい、平均レートは低下した。来週の償還総額(7/16~7/19)は、6,000億円程度となっている。事業法人の積極的な発行により、発行残高は前年同月に比べ1兆円強上回り、引き続き高水準で推移すると思われる。発行レートは、投資家は0%以上であれば運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出合いとなる。

<TDB>

9日入札の6M843回債は、償還日が来年1月となることから、12月末越えの担保としての需要が強く、最高落札レート△0.1902%(前回債△0.1614%)、平均落札レート△0.1961%(同△0.1654%)と前回債から大きく低下した。一方で12日入札の3M844回債は、最高落札レート△0.1363%(前回債△0.1323%)、平均落札レート△0.1463%(同△0.1455%)と前回債と横ばいであった。セカンダリー市場では3M物△0.14%程度、6M物△0.16%程度で出合いが見られた。来週は18日に1Y物、19日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.115%~△0.125%で始まり、以降週央にかけて△0.10%台まで上昇。積み期最終日となる12日受け渡しは、△0.11%近辺が出合いの中心。短期3Mの発行日である16日受け渡しは、後場△0.08%台まで上昇した。SC取引では5年139回債のbidが多く、週を通して概ね△0.10%台前半。10年353回債は、週末以降△0.10%台後半の出合いが一時的に見られた。他2年400・401・402回債、5年137・138・140回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・354・355回債、20年164・165・166・167・168回債、30年59・60・61・62・63回債、40年9・10・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。